

科目名	社会人基礎力講座(GCB I)						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高津原 直樹 小川 春美
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務(高津原) 病院にて言語聴覚士として勤務(小川)
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	「人間性・人格の成長」を目標に、DVDや記事を活用してクラス内での話し合いや発表を行います、GCB Iでは、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。 また、気づいたこと、感じたこと、学んだことを書き出し、積極的に表現していきます。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		接遇の基本事項について学び実践できる。	
	○			○		感謝心が人間力の根底にあることを説明することができる。	
	○	○				チーム医療の中で人間力を高めるためのマナーの重要性を理解できる。	
	○	○		○		レポートの基本事項について理解し、作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト 学校法人 麻生塾 GCB I 感謝心と思いやりの教育 参考図書 金芳堂 2016 高谷修 看護学生のためのレポート・論文の書き方						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	グローバル・シティズンを目指す					テキストにて30分復習しておく。
	2	「協働」の態度を持った学生生活					テキストにて30分復習しておく。
	3	より良い人間関係の構築に向けて					テキストにて30分復習しておく。
	4	マナーの本質 相手に迷惑をかけない・相手に良い印象を与える					テキストにて30分復習しておく。
	5	マナーの本質 相手に敬意を表する					テキストにて30分復習しておく。
	6	グローバル・シティズンとしての日常					テキストにて30分復習しておく。
	7	グローバル・シティズンとしての目標					テキストにて30分復習しておく。
	8	日本語の敬語の論理					授業資料のまとめを30分復習しておく。
	9	お礼文の書き方					授業資料のまとめを30分復習しておく。
	10	レポートを書く基本					授業資料のまとめを30分復習しておく。
	11	学校活動の準備と運営					必要な班や係のチームとしての活動について30分資料読み、確認しておくこと。
	12	学校活動実施にあたっての心構え					30分資料を読み活動内容が理解できるようにしておく。
	13	実習に行く際の心構え、注意点など					30分資料を読み活動内容が理解できるようにしておく。
	14	実習後の振り返り					チームワークとコミュニケーションについて振り返りを30分行い、ディスカッションできるようにしておく。
	15	まとめ					授業資料のまとめを確認し、30分復習しておく。
評価方法	(1)レポートを6回実施する。(2)小テストを実施する。(3)最終回に全体に向け発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	◎				50%
	レポート・発表	◎			◎		50%
履修上の注意							

科目名	社会福祉学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	石橋 雅子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉施設・地域包括支援センターに従事	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	社会福祉の概要を理解し、医療人として必要な実務に活かせる社会福祉の知識と援助方法を身に付ける。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会保障制度の概要について説明できる	
	○	○		○		各福祉制度の概要について説明できる	
	○	○		○		様々な福祉制度の中で、言語聴覚士としての活躍の場を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書：講談社 コメディカルのための社会福祉概論(第4版) 令和3年度版 厚生労働白書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、社会福祉の基礎と歴史				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	2	社会保障制度				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	3	公的扶助				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	4	こども福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	5	障害者福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	6	高齢者福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	7	介護保険制度				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	8	低所得者福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	9	地域福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	10	医療福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	11	精神保健福祉				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	12	ソーシャルワーク(社会福祉の相談援助)				教科書の該当箇所を事前に予習する。 本日の授業について復習する。	
	13	権利養護・事例検討				権利擁護と意思決定支援について予習する	
	14	事例検討				事例について理解を深める	
	15	まとめ				本時間の内容を振り返り国家試験対策につなげる	
評価方法	(1)科目終了後にレポート(800字以上1200字程度)の提出を求める。 (2)授業中に実施する小テストも評価に入れる。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	○	○		◎		30%
	宿題・レポート	◎	◎				70%
	発表・作品						
履修上の注意	制度や用語が多くでてくるので、該当部分の教科書を予習しておくこと						

科目名	統計学						
科目名(英)	Basic Statistics						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高橋 義文
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析してもらいます。 本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着 けていることが目標です。						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				統計データについて種類や特性について理解する	
			○			基本的統計について簡単な計算ができる	
				○		科学的な手法について興味を持つ	
テキスト・教材 参考図書	教科書：なし 参考文献：ムイスリ出版, 統計学教育研究会編(2006)『らくらく統計学』,						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	統計データの整理					本日の授業内容を復習してください
	2	標本分布の値の特性値					本日の授業内容を復習してください
	3	2次元データの特徴を表す特性値					本日の授業内容を復習してください
	4	期待値と分散					本日の授業内容を復習してください
	5	標本平均の分布					本日の授業内容を復習してください
	6	標本分散の分布					本日の授業内容を復習してください
	7	点推定と推定量の望ましい性質					本日の授業内容を復習してください
	8	母平均の区間推定(1)					本日の授業内容を復習してください
	9	母平均の区間推定(2)					本日の授業内容を復習してください
	10	仮説検定の基本的な考え方					本日の授業内容を復習してください
	11	平均値に関する仮説検定(1)					本日の授業内容を復習してください
	12	平均値に関する仮説検定(2)					本日の授業内容を復習してください
	13	分散に関する仮説検定					本日の授業内容を復習してください
	14	分散に関する仮説検定					本日の授業内容を復習してください
	15	まとめ					本日の授業内容を復習してください
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○	○			80%
	小テスト	○	○	○	○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	平井 智子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。 文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義: △		演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○	○		Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○	○		Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○	○		PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:実教出版企画開発部 30時間でマスター office2019						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
	15	スライドの作成、				入力練習・復習	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	個人のデータは各自のUSBに保存するので、毎回必ず持参すること。						

科目名	英語 I						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	ECC	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	Yes/Noや簡単な単語での英会話レベルから、正確に素早く1-2文で返答できる力をつける。①話すために必要なspeaking grammarを練習②場面に応じた決まったパターンの「機能表現」を練習③決まったテーマについて会話をする「会話練習」の③つのパートを取扱い、既習事項については「自分の言葉で」「自然に」話せることを目指す。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基礎を復習し英語に対する苦手意識を払拭する。	
	○	○				英語での短めの質問文に対し、基本的な答え方を身につける。	
	○	○				英語での質問に答えられるようになったら、会話らしく相手に質問する。	
	○	○				簡単な自己紹介や対話など、具体的に日常の場面をイメージしながら、自分のことを話せる。	
				○		積極的に発話をすることで、英会話能力と外国語を話すこと自体に慣れる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：Challenger α1(ECC)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション/授業の進め方や成績評価の詳細を説明します				自己紹介の復習・すらすら言えるまで練習する	
	2	Introducing Yourself -自己紹介をする				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	3	Jobs (仕事について話す)				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	4	Food you like -好きな食べ物について話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	5	Do you like celery? -食べ物好き嫌いについて話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	6	What did you do in Europe?-過去の旅行について話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	7	Past Trips-過去に行った旅行について話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	8	Around the city-町でできることについて話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	9	What's a nice place to see the fall? -あることをするのにお勧めの場所を伝える				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	10	Today-今日したことについて話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	11	Your Day-一日について話す				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	12	Chatting with Fellow Travelers-旅先でちょっとした会話をする				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	13	Making Small Talk on an Airplane-機内でちょっとした会話をする				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	14	発表準備				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
	15	発表				音声を利用し、既習事項の復習/単語テストに向け word powerを覚える	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				30%
	小テスト	◎	◎				40%
	参加点				◎		20%
	発表		◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	保健体育(実技)						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	龍 孝志	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	身体を単純に動かすだけでなく、楽しみながら動かす体験を積みことにより、運動法・パフォーマンス・他者に対して理解しやすい伝えかたなどを養う。またグループでオリジナルの運動方法を創作することにより、組織作業を模擬体験し、組織力や企画・創造・応用力を養うことを目標とする。						
授業形式	講義：		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			身体運動を通して、楽しむことができストレスを解消する手立てとしていくことができる。	
			○			運動法を理解し、模倣から正しい実践につなげていくことができる。	
	○		○	○		チームプレーを通して、他者理解を学び。伝え方を工夫していく方法を獲得する。	
			○	○		グループにおける、役割を意識しながら協調的に課題を解決していく方法を獲得する。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	仲間づくり コミュニケーションワーク				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	2	チームづくり 日本記録に挑戦(練習日)				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	3	チームづくり 日本記録に挑戦(記録日)				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	4	ドッジビー 投げる事を考える				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	5	ドッジビー 投げる事を考える② 応用編				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	6	ベタンク 輪投げ お手玉 投げる事を考える③ 現場編 パラリンピック種目の体験				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	7	ベタンク 輪投げ お手玉 投げる事を考える④ 現場 応用編 パラリンピック種目の体験				今日の授業内容を振り返る/次回小テストの内容について学習(20分)	
	8	6、7回の種目で模擬大会 小テスト				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	9	アルティメット 走攻守 ゲーム体験①				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	10	ユニホック 走攻守 ゲーム体験②				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	11	チームビルディング オリジナル作り				オリジナル提出のグループ活動(20分)	
	12	グループワーク オリジナル提出日				発表内容の練習(20分)	
	13	オリジナル発表				オリジナル発表内容について反省会(20分)	
	14	オリジナル発表 リクエスト				今日の授業内容を振り返る(20分)	
	15	まとめ				今日の授業内容を振り返る(20分)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)			◎	◎		90%
	小テスト	◎					10%
履修上の注意							

科目名	解剖学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織・器官系の概要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。						
授業形式	講義:		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				骨・関節・靱帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○	○				骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。	
	○	○				内臓諸器官の名称、特徴を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.廣川書店 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 渡辺正仁(監修) 2. メディカル・サイエンス・インターナショナル社 あたらしい人体解剖アトラス 佐藤達夫(訳) 参考書:ブルーバックス 新しい人体の教科書(上・下)/山科正平						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人体の構成、解剖学用語、細胞の構造と働き				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	2	組織学総論:上皮組織、支持組織(結合組織、血液)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	3	神経系(総論):神経組織、神経系の発生				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	4	骨と関節(総論):軟骨組織、骨組織、関節の形状				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	5	筋系(総論):筋組織、骨格筋の特徴				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	6	循環器系①:心臓、動脈系				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	7	循環器系②:静脈系、リンパ系				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	8	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	9	消化器系①:口腔、食道、胃、小腸、大腸、				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	10	消化器系②:肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	11	泌尿器系:腎臓、尿管、膀胱、尿道				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	12	生殖器系:男性生殖器系、女性生殖器系				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	13	内分泌系:人体の発生				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	14	感覚器系①:皮膚、味覚器、嗅覚器、聴覚器				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	15	感覚器系②:平衡覚器、視覚器				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	課題提出(15回)				◎		30%
履修上の注意							

科目名	生理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	坂口 博信
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく						
授業形式	講義:		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:マイナビ出版 運動・からだ図解 新版 生理学の基本						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	生理学序論					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	2	細胞生理					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	3	神経系(活動電位・シナプス・自律神経)					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	4	血液					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	5	生体防御(免疫)					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	6	循環(心臓)					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	7	循環(血圧)					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	8	呼吸					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	9	腎臓と排泄					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	10	酸・塩基平衡					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	11	消化と吸収					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	12	内分泌					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	13	性と生殖					授業に該当する教科書の部分について復習すること
	14	まとめ					まとめ学習の内容について復習をすること
	15	まとめ					まとめ学習の内容について復習をすること
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	聴覚系医学											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		30		担当者		星子隆裕			
実施年度	2022		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年											
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				聴覚器の構造と機能を説明できる。						
	○	○				聴覚検査を列挙し、それぞれの概要を説明できる。						
	○	○				聴覚系の疾患の名称を列挙できる。						
	○	○				聴覚系の疾患の特徴を概説できる。						
			○	○	授業時に質問ができる。課外学習の取り組みがある。							
テキスト・教材 参考図書	教科書：病気が見える 耳鼻咽喉科 参考図書：言語聴覚士テキスト、言語聴覚士のための基礎知識耳鼻咽喉科学、イラスト耳鼻咽喉科ほか											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	音をとらえる聴覚の機能					動画を視聴して、A4用紙一枚に耳のイラストを描いてくる。授業の内容をA4用紙一枚にまとめる					
	2	外耳と中耳の構造と機能					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	3	中耳と内耳の構造と機能					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	4	伝音機構と感音機構のまとめ					これまでの授業内容をA4用紙1枚にまとめる（60分） その1枚のみ、単元テストに持ち込み可とする					
	5	平衡機能と他器官の関連と単元テスト					単元テストのやり直し 授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分）					
	6	聴覚系の病態					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	7	基本的な自覚的聴覚検査					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	8	内耳機能検査					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	9	診断的な自覚的聴覚検査・聞こえの評価					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	10	他覚的聴覚検査					これまでの授業内容をA4用紙1枚にまとめる（60分） その1枚のみ、単元テストに持ち込み可とする					
	11	聴覚発達と小児聴覚検査と単元テスト					単元テストのやり直し 授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分）					
	12	先天性疾患と外耳疾患					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	13	その他の疾患					授業内容をA4用紙1枚にまとめる（30分） 次回講義時に提出する					
	14	ケースワーク					これまでの授業内容をA4用紙1枚にまとめる（60分） その1枚のみ、単元テストに持ち込み可とする					
	15	まとめと単元テスト					単元テストのやり直し					
評価方法	(1)授業の中で単元テストを3回実施する。 (2)宿題（A4一枚まとめ）を数回実施する。 (3)定期試験（筆記）を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はA（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎										30%
	単元テスト	◎										60%
	宿題（A4まとめ）	◎										10%
履修上の注意	授業資料およびまとめ課題はファイリングすること。 出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	神経系医学											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		30時間		担当者		工藤 康介			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		言語聴覚士として病院勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年											
授業概要	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。 障害の基礎を理解しアウトプットできる。 国家試験の問題が解けるようになる。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				国家試験問題を解くことができる。						
	○	○				神経系の構造を理解できる。						
	○	○				神経系の機能を理解できる。						
	○	○				中間テストを合格することができる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書：医療情報科学研究所.病気がみえる〈vol.7〉脳・神経. メディックメディア											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	授業説明、シラバス提示、神経系全体像、大脳の構造					授業の復習を30分実施。					
	2	大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、脳幹、小脳					授業の復習を30分実施。					
	3	脳動脈系、脳室系、脳脊髄液の循環					授業の復習を30分実施。					
	4	脳血管障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷					授業の復習を30分実施。					
	5	運動と感覚、錐体路、運動の異常、脊椎・脊髄疾患					授業の復習を30分実施。					
	6	反射、運動の調節、歩行障害、錐体外路					授業の復習を30分実施。					
	7	感覚、感覚障害、自律神経系					授業の復習を30分実施。					
	8	脱髄性疾患、多発性硬化症、神経変性疾患、筋疾患					授業の復習を30分実施。					
	9	感染症、末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患					授業の復習を30分実施。					
	10	中間テスト					授業の復習を30分実施。					
	11	脳神経（ⅠからⅢ）					授業の復習を30分実施。					
	12	脳神経（ⅣからⅦ）					授業の復習を30分実施。					
	13	脳神経（ⅧからⅫ）					授業の復習を30分実施。					
	14	意識障害、不随意運動					授業の復習を30分実施。					
	15	神経診察の全体像					授業の復習を30分実施。					
評価方法	(1)授業の中で中間テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		○								50%
	中間テスト	○		○								50%
履修上の注意												

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	池辺 陽子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療従事者として患者の心や治療者の心の動きを理解するために、必要な心理学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知覚と認知のプロセスを説明できる。	
	○	○				記憶と学習のプロセスを説明できる。	
	○	○				人がどのように動機づけられるのか説明することができる。	
	○	○				人の心の動きに影響する対人的、社会的状況を説明できる。	
	○	○				カウンセリング技法についてロジャースの理論を理解し、医療従事者として必要な態度を知る。	
テキスト・教材 参考図書	誠信書房 イラストノート 心理学入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理学とは 授業の進め方				授業に該当する教科書の部分について復習	
	2	第1章 知覚と認知の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	3	第2章 感情と情緒の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	4	第3章 欲求と動機の心理 — 生理的欲求				授業に該当する教科書の部分について復習	
	5	欲求と動機の心理 — 心理的欲求				授業に該当する教科書の部分について復習	
	6	第4章 学習と記憶の心理 — 学習				授業に該当する教科書の部分について復習	
	7	学 習と記憶の心理 — 記憶				授業に該当する教科書の部分について復習	
	8	第5章 性格と気質の心理 — 類型論と特性論				授業に該当する教科書の部分について復習	
	9	性 格と気質の心理 — 性格検査法				授業に該当する教科書の部分について復習	
	10	第6章 無意識と深層の心理 — フロイト				授業に該当する教科書の部分について復習	
	11	第6章 無意識と深層の心理 — アドラー・ユング				授業に該当する教科書の部分について復習	
	12	カ ウンセリングマインド — ロジャース				授業に該当する教科書の部分について復習	
	13	第8章 自 己と対人の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	14	第9章 社会と組織の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	15	まとめ				授業に該当する教科書の部分について復習	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	国家試験過去問題に目を通し、重要箇所を理解した上で授業に臨むこと。その上で、医療従事者として心理学について更なる理解を深めることが望ましい。						

科目名	生涯発達心理学の理論						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	福島 志津
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部1年						
授業概要	出生後から老年期までの発達の様子と発達理論を理解する。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発達の基本概念が説明できる	
	○	○				青年期までの発達の基本概念と主要理論を説明できる	
	○	○				成人期以降の認知・心理の特徴と主要理論を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための心理学 ～第2版～ 山田弘幸:編集 (医歯薬出版株式会社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達の概念とは				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	2	発達の規定要因				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	3	発達理論(ポルトマン、フロイト、エリクソン)				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	4	発達理論(ピアジェ)				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	5	乳児の知覚・認知の発達				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	6	乳児の運動発達				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	7	乳児の愛着の発達				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	8	幼児・児童期の遊びと認知機能の発達				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	9	幼児・児童期の自己、他者認知の発達と仲間関係				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	10	保育・学校教育と発達				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	11	青年期の親子関係・友人関係				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	12	青年期の自我同一性の確立				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	13	成人期の職業生活、家族生活				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	14	老年期の知的機能と死への対応				Formsで振りかえり課題を実施 小テスト対策(30分)	
	15	まとめ				講座全体を振り返り試験対策を行う(60分)	
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	基礎言語学										
科目名(英)	elementary Linguistics										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高井 岩生				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	言語聴覚学科1年										
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な言語学的な知識の習得を目指す。具体的には、音声、形態、統語の3分野に関する基礎的な知識を身に付けてもらいたい。今後、構音障害や言語発達上の要支援者の症例に関する研究を理解するときの基になる考えに慣れてほしい。また、随時、各項目の国試対策の折り込んでいく。										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					音素、異音、超分節音を理解し、音韻的な規則を基にして音韻現象を説明できる。					
	○					自由・拘束形態素の概念を基にして、個々の語の生成の仕組みを説明できる。					
	○					項と付加詞、意味役割、格などの概念を理解し、個々の述語の項構造を説明できる。					
	○					階層構造、文生成の仕組みを理解し、文産出及び文理解のモデルを説明できる。					
	○					言語的意味と発話の意図を区別し説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書は使用せず。プリントを配布する。										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	調音の仕組みとIPA					IPA表を見直しておくこと(30分)				
	2	音声と音素の違い、日本語の音素、異音の2つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと(30分)				
	3	超分節音(音節の構造、モーラの構造)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと(30分)				
	4	超分節音(アクセントの規則、イントネーション)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと(30分)				
	5	自由・拘束形態素、語の成り立ち、単純語と合成語					STテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	6	屈折・派生接辞、派生語と複合語					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	7	活用語の仕組み、活用語の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	8	異形態の5つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	9	項と付加詞、項構造、意味役割					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと(30分)				
	10	格の働き、格交替					授業時に配布したプリントとSTテキストの統語論の項目を見直しておくこと(30分)				
	11	文構造の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	12	言語獲得、動詞の島仮説、普遍文法モデルと用法基盤モデル					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと(30分)				
	13	ボイス、アスペクト、テンス、モダリティ					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと(30分)				
	14	言語的意味と使用意味、談話、推論					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと(30分)				
	15	対人関係構築からみたコミュニケーション					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと(30分)				
評価方法	定期試験の結果を重視する。ただし、適時小テストを実施し、その結果も加味する。定期試験は40問のマークシート形式であり、出題形式や内容は国試に準じる。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験		◎					80%			
	小テスト		○					20%			
履修上の注意											

科目名	基礎音声学										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	菅 岐 勝				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学にて音声学の研究に従事				
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年										
授業概要	私たちは普段人と話をする際、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。音声に対する理解を深めることは臨床現場において有益なものであると言えます。この授業では、発音、知覚、物理の3つの側面に 関する音声の知識を身につけると同時に、実践練習を積むことで音声を扱えるようになることを目指します。										
授業形式	講義：		演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				日本語の発音について国際音声字母で表記できる					
	○	○				日本語の音について正しい調音位置・方法を説明できる					
	○		○	○		チームプレーを通して、他者理解を学び。伝え方を工夫していく方法を獲得する。					
			○	○		グループにおける、役割を意識しながら協調的に課題を解決していく方法を獲得する。					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	音声学で扱う対象を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	2	発音の仕組みを理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	3	母音を記述する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	4	子音を記述する 3つの基準を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	5	子音を記述する 調音位置(構音点)による分類を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する。構音点につ いて演習しておく				
	6	子音を記述する 調音方法(構音法)による分類を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する。構音法につ いて演習しておく				
	7	日本語の音声を記述する					指定教科書の授業該当部分を復習する。記述練習を する				
	8	日本語の音声現象①					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	9	日本語の音声現象②					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	10	日本語の音韻体系を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	11	日本語の音の単位を理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	12	日本語のアクセントを理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	13	日本語のイントネーションを理解する					指定教科書の授業該当部分を復習する				
	14	日本語の音の発話演習					自主練習しておく				
	15	まとめ									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%				
履修上の注意											

科目名	音響学											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		30時間		担当者		藤井 忍			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年											
授業概要	①音の物理的性質およびその性質を量的に表現する様々な単位について学ぶ ②電気音響理論の基礎的事項について学ぶ ③音声の生成、分析・合成に関する基礎的事項を学ぶ											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				音の物理特性(波長、周波数、周期、振幅、位相など)が説明できる。						
	○	○				音の物理現象(共鳴、回折、反射、屈折、ドップラー効果など)が説明できる。						
	○	○				音響パワー(音圧、音圧レベル)と各種レベルについて説明ができる。						
	○	○				音響分析(スペクトル)の基本概念が説明できる。						
	○	○				音声音響を概説できる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書：『ゼロからはじめる音響学』 講談社											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	はじめに 身近な音（音の発生・伝搬など）					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	2	音波の性質 波長、周波数、周期、縦波と横波					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	3	共鳴、回折、反射、屈折、ドップラー効果					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	4	（弦・開管・閉管）の共鳴					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	5	音の強さの尺度 音圧、音の強さ、デシベル変換					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	6	音圧レベル、騒音レベルなど					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	7	音の種類 純音、複合音、周期音、非周期音					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	8	音のスペクトル スペクトル分解、短音スペクトル					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	9	サウンドスペクトログラム、アナログとデジタル					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	10	音声音響学 音声の生成、ソースフィルター理論					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	11	母音とフォルマント、フォルマント遷移					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	12	アンチフォルマント、子音					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	13	有声音と無声音					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	14	総合分析					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
	15	まとめ					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習する。(30分)					
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								80%
	小テスト(筆記)	◎		◎								20%
履修上の注意												

科目名	言語聴覚臨床の基本										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	灘吉 享子				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年										
授業概要	言語聴覚士の仕事について概要を理解し、われわれが専門とする言語聴覚障害についての大枠を知る。そのうえで、いくつかの障害概論を学び、言語聴覚士の役割についてイメージする。また、実際に現場の言語聴覚士から話を聞いたり、当事者の方々の話を聞くことで自分自身が進もうよしている、仕事の実感を理解することを目指す										
授業形式	講義:		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				これから目指そうとする言語聴覚士の仕事の実際について触れ、その対象となる言語聴覚障害の枠組みについて説明できる					
	○	○				言語聴覚障害のいくつかの種類について言語・コミュニケーション過程から説明できる。					
	○	○				言語聴覚障害の枠組みを理解し、いくつかの言語聴覚障害の原因・疫学・主要症状を概説できる。					
	○	○				言語聴覚士からの話を聞き、これまで学んだ内容も含めて言語聴覚士の仕事のやりがいについて説明することができる					
	○	○				言語聴覚障害当事者の方からの話を聞き、対人援助とは？ということ、説明することができる					
テキスト・教材 参考図書	改訂 言語聴覚障害総論 I 倉内 紀子 編著 建帛社										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	言語聴覚士の仕事					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	2	言語聴覚障害入門(コミュニケーション過程)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	3	言語聴覚障害入門(言語聴覚障害とは)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	4	言語聴覚士の職業倫理					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	5	高次脳機能障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	6	失語症の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	7	発話障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	8	摂食嚥下障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	9	吃音・流暢性障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	10	言語発達障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	11	言語聴覚士の仕事について(小児編)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	12	言語聴覚士の仕事について(成人編)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	13	当事者の方々からお話を聞く					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	14	ボランティアに参加しよう					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	15	11～14のうちひとつの経験を選択し体験発表					本日の経験について振り返りシートに記入				
評価方法	(1)授業の中で小テストを6回実施する。(2)宿題・レポートを毎回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業への参加状況(質問や応答、話し合いの際の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	○				60%				
	小テスト	◎	◎				10%				
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%				
	発表・作品				◎		10%				
履修上の注意											

科目名	失語・高次脳機能障害の理解 総論									
科目名(英)	Comprehension of Aphasia and Higher brain dysfunction      General remarks									
単位数	1		時間数		30時間		担当者		小川 春美	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科    1年									
授業概要	失語症及び高次脳機能障害関しての基本的知識について学ぶ。 失語症を含めた高次脳機能障害の種類や脳損傷領域との関連についての知識を習得する。									
授業形式	講義：      ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○    その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	○				失語症および高次脳機能障害の概要について説明できる。				
	○	○				失語症および高次脳機能障害が生じる疾患や要因について理解できる。				
	○	○				失語症および高次脳機能障害と脳損傷領域との関連について理解できる。				
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。				
テキスト・教材 参考図書	・医学書院 2021 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 ・ナツメ社 2016 小嶋知幸 やさしくわかる言語聴覚障害									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	高次脳機能障害 基本的概念					テキストの該当項を30分読んでおく。			
	2	高次脳機能障害に関する脳機能・神経基盤					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	3	高次脳機能障害の実態、リハビリテーション					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく			
	4	高次脳機能障害 背景症状 意識障害、注意障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	5	失語症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく			
	6	失行、行為・行動の障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	7	失認と関連症状					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。内容確認を中間期小テストで実施するので、復習しておく			
	8	半側空間無視	中間期小テスト				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	9	記憶障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく			
	10	前頭葉症状 遂行機能障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	11	認知症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく			
	12	脳梁離断症候群					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	13	認知コミュニケーション障害 脳外傷・右半球損傷					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。			
	14	高次脳機能障害の評価					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく			
	15	症例提示 まとめ					定期試験に向け、資料、テキスト、小テストの内容を確認し、復習しておく			
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回(中間期)、前期期間内で確認テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○						70%		
	小テスト・確認テスト	○				○		30%		
履修上の注意										

科目名	知的障害・脳性麻痺・脳性麻痺・後天性障害の理解						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	相浦満津子・浅田里美・若山恵	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の基本的概念と知識を習得する 知的障害・脳性麻痺・後天性障害の順に学習し、それぞれの関連を学ぶ						
授業形式	講義:		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の定義を説明できる	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の診断基準を説明できる	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の症状を複数の観点から説明できる	
	○	○				各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる	
	○	○				当事者、家族、関係者の心理を概説できる	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 藤田郁代(監) 建帛社 言語聴覚療法シリーズ 改訂 言語発達障害Ⅰ 大貝茂(編著)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	知的障害の概要(定義と原因及び診断基準)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	2	知的障害の言語発達の特徴				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	3	知的障害の言語発達領域の症状(認知領域)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	4	知的障害の言語発達領域の症状(コミュニケーション)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	5	知的障害の言語発達領域の症状(語彙、文法など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	6	知的障害の言語発達領域の症状(発声発語、読み書き)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	7	ダウン症の言語発達				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	8	脳性麻痺の概要(原因と定義)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	9	当事者、家族、関係者の心理の理解(事例検討)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	10	脳性麻痺の言語発達領域の症状(コミュニケーション、発声発語など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	11	脳性麻痺の言語発達領域の症状(認知など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	12	脳性麻痺の言語発達領域の症状(摂食機能と摂食機能の発達)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	13	後天性障害の概要(定義と発症する疾患の種類)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(31分)	
	14	後天性障害の言語発達領域の症状				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(32分)	
	15	まとめ				講座全体を振り返り試験対策につなげる(60分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。＜浅田・相浦＞ (2)事例検討レポートを実施する。 ＜若山＞ 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験＜浅田＞	◎	○				80%
	小テスト(4回)＜浅田＞	○	◎				20%
	定期試験＜相浦＞	◎	○				70%
	知的障害小テスト(6回) ＜相浦＞	○	◎				30%
履修上の注意	評価方法については浅田先生を4割、相浦先生を4割、若山先生を2割で計算し、最終的に合算します。						

科目名		聴覚障害の理解					
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	飛松 葉子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	補聴器メーカーに言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年		言語聴覚学科 1年					
授業概要		聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。人間の認知やコミュニケーション活動における「聴覚機能」の重要性を理解する。聴覚障害がもたらす問題や支援の原則などについて説明できるようになる。また、聴力レベルを理解し、模擬的に評価することができるようになることを目指す。					
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					聴覚障害を理解するための基礎的知識を説明できる。	
	○	○				聴覚障害がもたらす問題と支援の原則について重症度や発達に応じて説明できる。	
	○	○				コミュニケーションモードについて説明できる。	
	○	○				聴覚障害児者が利用できる制度、サービスについて説明できる。	
		○	○			聴力レベルを理解し、模擬的に評価することができる。	
テキスト・教材 参考図書		・建帛社「改訂 聴覚障害Ⅰ-基礎編」(参考図書) ・医学書院「聴覚障害学」第3版(教科書) ・建帛社「改訂 聴覚障害Ⅱ-臨床編」(参考図書)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生活における聴覚の機能・役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	2	聴覚系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	3	聴覚障害リハビリテーションの歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	4	聴覚障害の分類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	5	各種聴覚検査について(自覚的聴覚検査など)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	6	各種聴覚検査について(他覚的聴覚検査など)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	7	補聴器・人工内耳について				レポート課題(60分)	
	8	その他の聴覚補償・日常生活用具				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	9	コミュニケーションモードについて				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	10	小児聴覚障害の評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	11	小児聴覚障害の評価・指導・訓練				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	12	成人聴覚障害の評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	13	成人聴覚障害の評価・指導・訓練				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	14	聴覚障害に関連した医療・福祉・介護制度とサービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(30分)	
	15	純音聴力検査				レポート課題(60分)	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	レポート	○	○		○		20%
履修上の注意							